

互いの強みで互いを補完

OneTeam 東電物流編では、物流面でライフラインを支える東電物流チームの相互信頼関係や、目指している物流ネットワークの将来について、パートナー企業それぞれの代表の考えを聞くためにリレーインタビューを行った。第3回は、八洲運輸（東京都千代田区）の牧田剛明社長に話を聞いた。

◇

東電物流様とは、電柱が木製からコンクリート製に変わりゆく時代からの長い付き合いをさせていただいているが、信頼できるパートナーであり続けるために、我々にしかできない、我々の強みを生かせる仕事を心掛けていきたいと考えている。我々がメインに扱うのは重厚長大な荷物の輸送だが、東電物流様のニーズに合わせて、

いかに安全・確実・的確、そして迅速に対応できるかが、信頼関係の基本であると肝に銘じている。

一例として、我々にとって重要な仕事の一つに電柱輸送がある。電柱は重くて長くて丸い…まさに扱い難い荷。積み・下ろしの作業を含め、どの作業工程でも一つ間違えれば重大事故につながりかねない。これまで電柱輸送を通じて積み重ねてきた技術とノウハウは、我々の強みにつながっている。

こうした強みは、何より「人」の持つ技術技能に立脚するものだと考えている。例えば、我々の乗務員は、ほぼ全員が玉掛けの資格を取得し、箱モノの輸送だけではなく、重機による荷扱いにも対応する技能を持っている。

「人」の持つ技術技能が信頼関係を強くするための強みになると改めて感じたのは、2年前のある出来事だ。

我々はPCB特別産業廃棄物に

八洲運輸社屋



該当する重量物の運搬事業をお任せいただいているが、東電物流様としても、このノウハウを自ら会

得したいというお話があった。「八洲運輸の乗務員さんを1年間、私たちの社員の教育のために出向させて欲しい」とのお願いに、1年間空車が発生することも頭に浮かんだが、信頼関係を第一に考え、快諾した。これもまた、「人」を強みとする我々だからこそ成しえた取り組みだと思う。

「人」という要素は、私が運送事業者として最も大切にしている要素でもある。「人」の「思い」

その「思い」を共有することで、信頼で結ばれたチームになると思う。

東電物流様とは、これからも「人・モノ・思い」へのこだわりを共有し、互いの強みで互いを補完しあえるチームとして、電力関連産業の一翼を担っていきたい。

◇

リレーインタビューの第4回は、プリヴェ運輸（栃木県宇都宮市）の上田敏夫社長に、エネルギー物流に携わるうえで大切にしていることや課題についてお聞きします。（小西克彦）

東電物流編
One Team
第3回
信頼で繋がるネットワーク



八洲運輸
牧田剛明社長